

新たな惑星科学の推進に向けて

留岡 和重¹

将来計画専門委員会の役割

惑星科学はいま、旧来の学問分野の枠を超え、手法や対象の異なる様々な研究を包含すべき新しい時代を迎えています。また、21世紀に向け日本も本格的な惑星探査の時代を迎え、それを支えるべく、幅広い、レベルの高い惑星科学者の組織を作ることが求められています。そうした認識を一にする多くの研究者たちにより新学会の創設が実現しました。

惑星科学の研究者たちのそのような強い要請や期待に応え、日本の惑星科学を振興し発展させて行くには、今後、我々日本惑星科学会はいったい何をすべきなのでしょう。こういった問題を短期的・長期的視点で捉え、具体的な方針・方策を打ち出していくことが将来計画専門委員会の目的です。本委員会は、今処女航海に出たばかりの日本惑星科学会という船が今後その目的の達成に向けて立派に航海できるかどうかを左右する、舵取りにも似た重要な役割を担っているとも言えます。「惑星科学」は、学問の領域がきわめて広いことがその特徴の一つです。その広い領域をできるだけカバーすることを考え、以下の8名の方々に専門委員をお願いしました。

海老原 充（都立大）、大谷栄治（東北大）

加藤 学（名 大）、川口淳一郎（宇宙研）

土山 明（阪 大）、林 正彦（東 大）

藤井 直之（名 大）、渡辺誠一郎（山形大）

各委員の方々には、自分の専門分野だけでなく、周辺分野の問題点を吸い上げ、それぞれの立場から意見をぶつけ、実りのある方針・方策を打ち出

して下さることを期待しています。必要があれば適時メンバーを追加することにし、まずはこのメンバーで発進したいと思います。

当面の活動目標

本委員会の当面の活動目標としては、提言書「惑星科学の振興について（仮称）」の作成を考えています。昨今、各大学に「惑星」を冠した講座や学科が生まれつつあります。しかし、惑星科学は新しい学問分野であるため、まだまだ規模が小さく十分な設備がないこと、高いレベルの研究者・教育者が不足していることなど、その研究・教育環境は極めて不十分な状況にあります。今後の全国的な研究・教育環境の整備・改善に向け、2～3年をめぐりに提言書をまとめ、文部省、学術会議、学術審議会、科学技術会議など公的機関に働きかけることにしています。

まず手始めとして、日本全国の国公立大学の地球・惑星科学に関連のある学科を持つ学部学部長宛にアンケートを送り、惑星科学に関わる研究・教育環境の現状調査を行っています。

また、文部省科学研究費補助金「惑星科学」への応募・採択状況についての調査を行い、今後、補助金細目が時限ではなく永続的なものとなるための方策を検討していくことにしています。

また、以下のような視点からも検討を試みる必要があると考えています。即ち、今後、惑星科学者集団の裾野を広げて行くため、高校生レベルを含む若い人たちへの「惑星科学」の啓蒙活動を検討すること、あるいは本委員会の活動を通して、シンポジウムのテーマを掘り起こし、総務・企画部会へ提言することなどです。

¹神戸大学理学部地球科学教室
（将来計画専門委員会委員長）

もっと長期的には、2000年以降の本格的惑星探査を立案することも重要でしょう。日本はやっと独自の惑星探査を実施する段階に達しました。しかし、既に立案、実行に移されている1990年代の計画は、いわばパイロット的なもので、太陽系の起源に迫るにはさらに本格的な計画を推進していく必要があります。地球型惑星の内部探査、火星の生命探査、小天体の物質科学的探査などを対象に、その科学的意義、方法、予想される困難とその克服のための方策、国内における実行グループの育成方策、巨大化する探査の国際的協力形態などについて、現状にこだわらず夢のある計画案を作り上げていきたいものです。

本委員会の活動に関連して、学会員皆様からの御意見、御提案などを期待しています。尚、上に記しました全国大学学部長あてのアンケートは、この夏早々に実施しました。アンケートの内容は以下の通りです。

惑星科学に関する現状調査

- (1) 貴学部には「惑星科学」に関係があると思われる学科がありますか？
 ある ない
「ある」ならその学科名をお教え下さい。
「ない」場合は(5)へ飛んで下さい。
- (2) 貴学部内には惑星科学に関連のある教官(教授・助教授・講師・助手)、技官、大学院生、学部生はどの位いますか？
a) 教官：教授__名、助教授・講師__名、助手__名、技官__名
b) 大学院生：修士__名、博士__名
c) 学部生(1学年)__名
- (3) 貴学部における惑星科学に関係ある専門課程の講義の数はどのくらいでしょうか？
学部__、大学院__
- (4) 貴学部では、過去数年以内に惑星科学関連学科の新設、改組、拡充など何らかの変革がありましたか？

- あった、 進行中、 なかった
「なかった」場合には(5)へ飛んで下さい。
- (a) それはいつ、どのような内容のものでしたか？(年次計画として進行した場合は年度毎にお書き下さい。また、現在進行中の場合には、将来予定されているものも含めてお書き下さい)。
 - (b) この変革に伴う教官(教授・助教授・講師・助手)、技官の増員はどの程度でしたか？
教授__名、助教授・講師__名、助手__名、技官__名
 - (c) この変革に伴う学部学生及び大学院生の増員はどの程度でしたか？
学部学生__名、大学院生(修士)__名、大学院生(博士)__名
 - (d) 上記増員に伴う講義室、院生室などのスペースはどのように確保されましたか？
 新增設、 学内融通、 学部内融通、 学科内融通、 関連研究室融通、 変化なし
 - (e) 上記変革に伴う研究室、実験室等のスペースはどのように確保されましたか？
 新增設、 学内融通、 学部内融通、 学科内融通、 関連研究室融通、 変化なし
 - (f) 学生実験、学生演習などの教育のための機材、設備等は必要最低限のレベルを確保できていますか？
 - (g) 大学院教育のための、あるいは、研究のための設備、実験環境は必要最低限のレベルを確保できていますか？
 - (5) 今後、貴学部で惑星科学に関わる変革を予定しておられますか？もし予定しておられましたら、それがどのようなものであるかお教え下さい。
 - (6) 何か御意見がございましたら御自由にお書き下さい。